

令和2年度

社会福祉法人 富山市社会福祉協議会 事業報告

人口減少と少子高齢化の進行とともに、家族形態や雇用形態も変容し、地域における人と人とのつながりが希薄化するなか、支援を必要とする高齢者や障害者、生活困窮者などが増加し、子どもの貧困や社会的孤立、虐待なども大きな社会問題となっています。

また、「2025年問題」や「2040年問題」では、団塊の世代が後期高齢者となり、社会保障費や介護人材の不足等が問われています。

このような中、令和2年度当初からの新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の日常生活や経済活動に大きな影響を及ぼしました。医療現場の混乱だけでなく、倒産、解雇による失業者の増加やこれまで貧困とは無縁であった世帯への貧困の拡大、また、経済的な苦境や孤立による若者や女性の自殺者の増加などが大きな社会問題として顕在化してきています。

本会においても、令和2年度はコロナ禍の中での事業展開ということもあって、多くの事業が中止や規模縮小を余儀なくされましたが、感染防止に努めながら令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とする「地域福祉活動計画」に基づき、地域福祉推進事業に取り組みました。

生活福祉資金貸付事業や生活困窮者自立支援事業では、きめ細かな相談対応に努め、コロナの影響により休業や失業された方に対しては、緊急かつ一時的な生計維持を目的とした「緊急小口資金特例貸付」や日常生活の維持が困難となった世帯への「総合支援資金特例貸付」を、住居の喪失のおそれのある方には「住居確保給付金の支給」を行い、多くの方のコロナ禍での生活の維持・立て直しを経済的に支援しました。

新たな取り組みとしては、子育て応援セミナーを開催し、英語を使ったりリズム遊びや子育て相談、子育て世代の情報交換などを行い子育て家庭の支援に努めました。

また、次年度に向けた取り組みとして、地域食堂（子ども食堂含む）を支援することを目的とした「地域食堂・子ども食堂実施状況調査」を行うとともに成年後見制度の利用促進や普及啓発等を目的とした中核機関の設置について、富山市と協議を進めました。

さらに、経営改善に関する取り組みとしては、組織のスリム化による経費節減や事務事業・職員配置の見直しを行い効率的で安定的な法人運営に努めました。

令和3年5月

社会福祉法人富山市社会福祉協議会
会 長 野 尻 昭 一